去、其聲短如笑、若夜間屋上聞鼠之走行、人作鼬聲、則鼠潛行而去、鼠之懼鼬者若斯矣、鼬性能馴人、畜之作弄戲、俚俗所謂能行怪、庭砌成群而鳴、則有吉有凶、人若看之、祝曰鼬眉目美、則凶變作吉兆、復村市夜間空中有焰氣、高升如立柱、呼稱火柱、其消盡處必有火災、此言群鼬作妖也、一種狀大如狐狸、身亦稍長、尾亦彌大、純黃色有光、俗號天、源順訓貂、稱天者未詳、或曰老鼬也、世常不能見之、而深山希獲之、或謂棲于水中、若得之則剝皮、造鋒戟之飾、以爲貨、俱未詳、又取身尾柔毛、同製筆、然毫勁不及中華之產也、

〔和漢三才圖會三十九〕鼬音佑　鼠狼　鼪音生　鼲音谷　地猴　和名以太知略○中

按鼬其眼眩、耳小吻黑、全體黃褐色、身長而柔撓、雖小隙竹筒反轉無不出、能捕鳥鼠、唯吮血而不全食之、其聲如轉木音、群鳴則以爲不祥、或夜中有焰氣高外如立柱、呼稱火柱、其消倒處必有火災、蓋群鼬作妖也、

水鼬　本此一種、常棲屋壁穴、覘瀦池、入水捕魚、性畏蟾蜍、如相見則鼬困迷、又畏瓢簞、故養魚池邊安瓢簞、

〔本草綱目譯義五十獸一〕鼬鼠　イタチ

人家ニ多シ、世上知ル處也、鼠ヨリ大ニシテ體モ長ク、尾モ大ク巾ヒロシ、毛色黃ニシテ黑ミアリ、又少シ斑アルモアリ、頭鼠トチガイ丸ク口ノ上黑シ、身和ニシテ竹筒ニ入テ又アトヘ反ル、大和本草ニモ、鳥籠ノ目ヨリ入テ雞ヲ盜トアル也、一名、鼠郎、通雅　狼猫、同　鼬鼬、同　黃鼠、附方　騷鼠、盛京通志

〔源氏物語五十東屋〕あやしく心をさなげなる人をまゐらせおきて、うしろやすくはたのみ聞えさせながら、いたちの待らんやうなる心ちのし侍れば、よからぬものどもに、にくみうらみられ侍ときこゆ、いとさいふばかりのおさなげさにはあらざめるを、うしろめたげにけしきばみたる御まかげこそわづらはしけれとて、わらひ給へるが、○略下